

2 社会教育関係団体の活動支援基礎調査、社会教育関係団体に所属していない人の学習ニーズ調査（インタビュー調査）

（1）調査の概要

1）社会教育関係団体の活動支援基礎調査

①調査の目的

社会教育関係団体の企画運営の中心となる役員を対象として、活動経歴（個人史）や悩みを直接聴き、実際にどのような学びや体験、地域資源との関わりが活動に活かされているのかということ等を明らかにし、団体の活動を支援する基礎資料とします。

また、職員が「聴くこと、学ぶこと、共感すること」を基本姿勢として調査にあたることで、社会教育への理解を深める機会とします。

②調査の実施

調査主体	大牟田市教育委員会
調査期間	平成23年9月5日（月）～9月15日（木）
調査対象	社会教育関係団体の役員等 33人 （町内公民館、PTA、子ども会育成会、ボーイスカウト、ガールスカウト、子育てサークル、地区公民館サークル、おはなしネット、まなぼんかん登録団体、文化団体など）
調査方法	教育委員会事務局・教育機関職員によるインタビュー

2）社会教育関係団体に所属していない人の学習ニーズ調査

①調査の目的

社会教育関係職員が業務で接する機会の少ない、社会教育関係団体に所属していない人を対象として、活動経歴（個人史）や本人が意識していない学習活動等を直接聴き、実際にどのような学びや体験、地域資源との関わり、潜在的な学習ニーズがあるのかを明らかにし、市民の社会教育活動の促進の基礎資料とします。

また、職員が「聴くこと、学ぶこと、共感すること」を基本姿勢として調査にあたることで、社会教育への理解を深める機会とします。

②調査の実施

調査主体	大牟田市教育委員会
調査期間	平成23年9月12日（月）～9月16日（金）
調査対象	市民 15人（3人×5グループ） （団塊の世代、青年、企業職員、フルタイムで仕事していない人、青年会議所）
調査方法	教育委員会事務局・教育機関職員によるグループインタビュー

(2) 調査結果

1) 調査結果の概要（社会教育関係団体の活動支援基礎調査）

①町内公民館

ほとんどの人が、退職した後に近所の人から声をかけられ、地域への愛着や責任感から、役職を引き受けておられます。「しょんなか」と言いつつも、仕事や他の活動で身につけた経験や技術を生かして活動され、住民のちょっとした変化に喜びを感じたり、頼られることでやりがいを感じたりして、熱心に活動を続けられています。

また、労働組合や社宅のことなど、大牟田ならではの特色ある話も聞かれました。

◆Aさん（町内公民館長、60歳代、男性）

館長8年目。今の活動は「しょんなかけん」やっているが、してもらって当然という思いを持たれるのは困る。しかし、多くの人と出会い、多様な考え方にふれ、地域の課題を解決するための活動にやりがいを感じている。また、学び・感動が継続の秘訣だと考えている。

◆Bさん（町内公民館長、70歳代、女性）

長い間、民生委員・児童委員として活動し、多くのことを学ぶ。見守っていた子どもから声をかけられると楽しく嬉しい。元気な間は、「学んだことを人のために生かしたい」と考えている。町内公民館役員のなり手はないが、地域の皆さんは協力的だと感じている。

◆Cさん（町内公民館長、60歳代、男性）

労働組合での活動を通じ、機関紙の重要性を学ぶとともに、作成技術を身につける。何事に対しても「負けない」という気持ちで臨み、地域便りを定期的に発行している。どんな活動においても、仲間との旅行などの楽しみを大切にしている。

◆Dさん（町内公民館役員、70歳代、男性）

県外の小学校を退職後、市内へ転入し、友人がほとんどいない状態で、町内公民館の役員に就任した。各世帯に町内公民館の情報が伝わっていないと感じ、地区公民館のサークル活動で学んだ水墨画を挿絵に、「町内だより」の発行に取り組んでいる。

◆Eさん（町内公民館長、70歳代、男性）

子どもの頃の遊びなどを通して、思いやりの心や発想力、我慢する力が養われたと考えている。使命感で地域活動しているが、子どもの頃、近所の大人に叱られた（育てられた）ことが、地域活動を行う上での心構えによい影響をもたらしていると感じている。

◆Fさん（町内公民館長、60歳代、男性）

市役所を退職後、前任者から頼まれて町内公民館長に就任する。町内公民館の魅力「地域の支え合い・助け合い」を理解していない人が多いと思っている。公園の清掃活動を数世帯で毎月行い、さらに年1回は全世帯で行っており、「行政に頼らず、できることは自分達でやる」という意識が周囲に少しずつ理解されて

いることに喜びを感じている。

◆Gさん（町内公民館長、60歳代、男性）

家業を50年続ける傍ら、奉仕活動団体に所属して様々な社会奉仕活動を経験する。仕事を辞めた後、館長に就任し、市内で1番の町内公民館にすることを目標に活動している。地域の言葉かけ、会話が大切であり、なにより町内の住民全員に楽しんでもらい、加入率も上げたいと考えている。また、朝夕の見回りで声をかけられる際等に、やりがいを感じている。

②地区公民館等のサークル、文化団体

友人に誘われたり、地区公民館等の講座を受講したりしたことがきっかけで活動を始めた人が多いようです。友人や仲間、講師などの魅力的な人との出会いを支えに、活動を続けています。そして、長く学び続けることで、現在はサークル等の中心的存在となり、責任感とやりがいを感じながら活動しています。

また、学んだことを子どもたちや後輩へ教えるなど、学んだ成果を生かすことで、子どもたちや後輩からの反応に手応えを感じ、より一層やりがいをもって活動されています。

◆Hさん（サークル、70歳代、女性）

地区公民館の講座（婦人大学）をきっかけに学習グループを設立し、30年近く活動している。「女性研修の翼」に参加し訪れたヨーロッパのまちでは、首長も女性で、目から鱗が落ちるような感覚の連続だった。行動力があつた学習グループの初代会長との出会いや海外での鮮烈な印象が、女性問題に関する長期間の活動につながっている。

◆Iさん（サークル、80歳代、男性）

町内公民館の主事として資料を作るため、必要に迫られて地区公民館の初級パソコン講座を受講し、サークルを設立した。その後、パソコンのボランティアサークルも設立して活動。現在は、学んだことを教えたり、頼まれた町内公民館行事の資料を作ったりして、やりがいを感じている。

◆Jさん（サークル、70歳代、女性）

夫が炭鉱で働くようになり、市内に転入した。社宅暮らしでの深い近所付き合いや、地域行事への参加で、人と接する楽しさを実感した。近所に住んでいた「お世話焼きさん」に誘われてサークル活動を始め、今は人を誘う立場になっている。

◆Kさん（政治学級、90歳代、女性）

20歳代で夫を亡くし、周囲の支援を得ながら子連れで働いた。ストの際の炊き出しも経験した。老人会がきっかけで政治学級の活動を始めた。また、仲人をするのがきっかけで踊りを10年習った。他に句会にも参加しており、老後を豊かにする生き方が良いと考えている。活動のやりがいは、人との交流ができること、ほめられる機会があること、成果が見えることだと思っている。

◆Lさん（サークル、70歳代、男性）

学生時代から陶芸を学び、退職後は地区公民館の講座の講師も務めた。陶芸サ

ークルでは友人との会話を楽しんでいる。陶芸を指導した子どもたちからもらったお礼の言葉は、一言ずつでも本当に嬉しかった。また、介護施設へ簡単な体操のボランティアとして出向いている。話をしたり聞いたりしていると、とても喜んでもらえる。

◆Mさん（サークル、80歳代、女性）

「三池まり」の美しさに魅せられて、活動を始め、折り紙、水泳、コーラスなど現在は6つのサークル等で活動している。このようなサークル活動の素地ができたのは、家事と育児に専念していた頃、移動図書館を利用した際に、当時の図書館長から読書会を勧められたことにある。サークルでは、「楽しい」と「仲間づくり」が重要と感じている。

◆Nさん（青年サークル、20歳代、女性）

小学生の頃からボランティアに興味を持っていた。大学生の頃「少年少女サマーライフ」のリーダーとなり、議論の中で意見がぶつかり合うことを知った。それから、自分の意見を言うために考えるようになり、人前で話ができるようになった。仕事との両立に苦労しつつも、もっと大牟田のまちを学ぶ活動をしたい。自分がボランティアしていると思っておらず、楽しいから活動している。

◆Oさん（文化団体、70歳代、男性）

数回の転職や地区公民館の講座で様々な人と出会い、詩吟に誘われたのがきっかけで民謡を始めた。登録ボランティアとして介護施設に踊りなどの団体と一緒に出向いたり、日曜日にずっと行事が入ったりするが苦にならない。人との付き合いがあるから若くいられる。大声で歌うことでストレスを発散できる。30年以上もの間、ともに活動している仲間がいる。会員の減少を心配している。

◆Pさん（文化団体、女性）

子どもの頃からピアノを学んでいる。海外に留学した際に、「自分の弾き方がいい」と言われたことで心が軽くなり、生きている限り弾こうかなと思った。当時の生涯学習課の呼びかけにより、個人での活動から団体活動に活動の幅を広げている。現在は発表会を継続して開催している。

③子育てサークル

子育てで多忙な日々を過ごす中で、同じような悩みを抱える仲間が欲しいという思いから、家庭教育講座や「つどいの広場」などに参加しています。そして、サークルを設立し、活動することで、共感できる人がいることや、社会と接していることの大切さを実感しています。

また、仲間がいつでも気軽に参加できるように、サークルの存続を強く願って活動するとともに、子育てが落ち着いたら働きたいと考えています。

◆Qさん（子育てサークル、30歳代、女性）

妊娠を機に退職し、その後、地区公民館の家庭教育講座からサークルを設立した。サークルでは、「〇〇のママ」でなく、本人を尊重し名前で呼び合うようにしている。外で働かないとストレスが溜まるので、子どもが幼稚園に行くように

なったら、人とふれあう仕事をしたいと考えている。幼稚園に入るまでがスキルアップのチャンスなので、資格取得につながる託児付の公民館講座があるとよいと思っている。

◆Rさん（子育てサークル、30歳代、女性）

双子ならではの苦労がある。託児付の講座へすがる思いで参加し、同じ苦労を感じている人と出会い、共感できたことで救われた。他都市の双子サークルへ通った後、協力者を得て情報交換や悩み相談をするサークルを設立した。同じ悩みを抱える人や「子育て漬け」になっている人の救いになればいいとの思いで活動している。

④子ども会、PTA

子どものために会の活動に関わり、周囲から声をかけられて役員に就任しています。子どものための活動を続ける中で、活動が多くの人との出会いや自らの成長につながることに、魅力・やりがいを感じ、継続されています。

◆Sさん（子ども会育成者、40歳代、女性）

市外から転入して7年目。異年齢の交流や地域の人との交流を深めたくて子ども会に加入した。地域の大蛇山まつりに携わり、子どもたちは太鼓を叩くことが嬉しくてたまらない様子で、大変だったが充実感・達成感を味わった。活動すると生活に目標ができる。役員だけでなく、会員全体のための子ども会活動になってほしいと思っている。

◆Tさん（子ども会育成者、40歳代、女性）

子どもに学校外の活動を体験させたかったので、ジュニアリーダーの活動を知り、子どもに加入を勧め、自らも役員として関わることになった。自分が成長しないと子どもを育てられないと思っている。町内公民館等の活動に携わったこともあり、みんなで楽しく活動することで人を大事にする心が育つと思っている。

◆Uさん（中学校PTA役員、50歳代、男性）

PTA活動は、負担ではなく親同士が話し合う場、楽しむ場であった方がいい。小学校PTAの役員をしていた頃、友人が応援してくれたのが嬉しかった。応援してくれる人がいると心強いし、そのときの繋がりが今もいきている。また、20歳代に「少年の船」へ参加した経験が財産となっている。

◆Vさん（小学校PTA役員、40歳代、男性）

以前勤めていた建設会社での厳しい仕事の経験が、人前で話をすることや、人と直接会って物事を決めること等、現在の仕事やPTA会長として必要な能力の基礎になっている。それまで全く意識はなかったが、次男が生まれてから子どものために何かしなければと思うようになり、声をかけられたので役員をするようになった。

◆Wさん（元PTA役員、40歳代、男性）

子どもの入学を機に引っ越したので、転居先の人と親も一緒に仲良くなるためにPTA役員となった。続けられたのは、子どもたちが笑顔でいてくれるから。

前の職場は炭鉱で、危険と隣り合わせであったため、死を身近に感じ、やりたいことは今やろうと思うようになって勉強し、今の仕事に就いた。子どもを見て、今の自分を振り返り、原点に返れる。人との関わりによって良いことばかりではないが学びがある。

⑤ボランティアグループ、NPO法人

講座に参加したり、友人や地域の人に誘われたりしたことで活動を始め、様々な活動を積み重ね、多くの人と出会い、学び、仲間と共に学んだ成果を生かして社会に貢献する活動をしています。また、このような団体で積極的に活動している人は、一つの分野にとどまらず幅広い分野で活躍しています。

◆Xさん（NPO法人、70歳代、男性）

仕事している頃は、帰りも遅く地域のことは全く携わらなかった。退職後、前館長の体調不良をきっかけに町内公民館長となった。NPO法人には、校区連協役員として関わっている。地区公民館でサークル活動も始め、ボランティア活動も行なっている。転勤等の経験が、地域での人間関係の構築に役立っており、地域においては校区行事の裏方を担っている。

◆Yさん（地域福祉団体、60歳代、女性）

父親から、「人生の8割は自分のため2割は世の中のために使え」と教えられて今の自分がある。幼稚園の役員をきっかけにPTA活動に関わり、祖母や母がいたことから福祉関係の活動を始めた。人からしてもらうことは楽だが自分のためにならない、地域の中でできることは自分達でやるのが大切。そして、人の話をじっくり聴き、みんなで検討することの積み重ねが地域づくりにつながると思っている。

◆Zさん（まなばんかん登録団体、70歳代、女性）

以前は、地区公民館の存在も知らなかったが、友人から誘われて、地区公民館で大正琴を始めたのをきっかけに、現在は5つのサークル等で無理せず楽しく活動を続けている。ボランティア活動は、喜ばれることが次の活動の糧になると感じている。また、活動を支える要素として経済面は無視できない。子どもに頼ることなく年金の許す範囲で活動している。

◆aさん（ボランティアサークル、60歳代、男性）

定年退職後、町内公民館役員に就いた。連協の会議で地区公民館を利用するようになり、職員から誘われてボランティア講座を受講し、サークルを設立した。料理教室や地域の歴史を学び伝える講座、図書ボランティア講座なども受講し、様々な活動を行っている。子ども相手が一番楽しい。ボランティアグループを立ち上げるのはいいが、行政のフォローが足りないと感じている。

◆bさん（ガールスカウト、60歳代、女性）

中学生の頃、制服に憧れガールスカウトに入団し、大学時代を除き活動を続けている。続けられたのは「大人の魅力」があったから。そして、ガールスカウトが成り立つのは、教育方法が確立され、創始者の想いが上の世代から受け継がれ

ているから。このような活動の基盤を受け継ぐ使命を感じている。若い頃は、青年の船にも参加した。現在、青年の活動の場が少ないので、青年層の活動の場をつくるべきと考える。

◆ cさん（まなばんかん登録団体、70歳代、男性）

退職後、公民館だよりを見て「竹細工で大蛇を作ろう」という地区公民館講座に参加し、指導サークルへ加入した。子どもにナイフの使い方を教え、使えるようになる感謝してもらえる。そのときは嬉しいし、子どもと作品で遊ぶときも本当に楽しい。サークルの会長を務めているが、仲間の協力があるので嬉しいし苦労もない。今は、浅く広く活動している。

◆ dさん（読み聞かせ団体、50歳代、女性）

地区公民館の絵本講座を受講し、職員の勧めもありサークルを設立した。サークルに入るのは敷居が高かったが、呼びかけてもらったのが良かった。子どもに読んでみると「また読んでね」「今度はどんな話？」など笑顔や反応が伝わるので、楽しい。断れずに仕方なく子ども会や町内公民館の役員になったが、人脈ができ、いろんなことを知ることができるなど達成感を得ている。

◆ eさん（ボーイスカウト、50歳代、男性）

小学生の頃、友達に誘われてキャンプができると思い入団した。現在まで活動を続けられた秘訣は、楽しかったから。今では趣味になっている。また、活動を通じて人とのつながりができることが良い。以前は、他の団体と「青少年のつどい」等を実施し情報交換や議論を行っていた。ボーイスカウトの広報が不足しているのでPRできる場が欲しいと思っている。

◆ fさん（まなばんかん個人登録者、60歳代、男性）

10数年前、市外の団体の講座を受講したことをきっかけにグループを立ち上げ活動を続けている。この活動の他に、地元の高齢者から自然や風習、祭りなどを聞き取り「田舎遺産掘り起こし」を始めた。若い頃は、青年学級で活動し、「青年の家」の設立運動にも参加した。これらの経験を他の人に還元したいと考えている。

◆ gさん（食育関係団体、70歳代、女性）

栄養教室を受講して、30年以上前に団体に加入した。入会すると受講内容だけでは分からないことが多く、物足りなくなり、学習活動の意欲が出てきた。仲間との出会いが、団体での活動の継続につながっている。行事の準備は大変だが、自分の勉強と思って活動している。団体が行う料理教室の参加者から、感謝されることに充実感を得ている。

2) 調査結果の概要（社会教育関係団体に所属していない人の学習ニーズ調査）

① 団塊の世代

全員が、これまで仕事一筋の生活を送っており、団体に所属して学習活動を行う余裕はなかったようです。しかし、読書や仕事に関する研究を行うなど、それぞれが興味・関心のある分野の学習活動を行っています。仕事はできるだけ続けたいと

考えており、サラリーマンの2人は、退職後も、働いています。また、子どもの頃の仲間との多様な遊び（パチ、ラムネ玉、6もじ、缶けりなど）を、体験として語っていました。特に、図書館は3人とも利用しています。

◆hさん（60歳代、男性）

日本料理の板前として40年近く働いている。現在は独立して自分の店を持っているので、忙しくてサークル活動等には参加できない。自分には料理しかない。仕事では、有名料亭や旅館などを訪ねたりして、研究を重ねている。

◆iさん（60歳代、男性）

東京の会社に35年勤務し、定年退職した後、大牟田へ帰郷。現在は、別の分野の仕事をしながら、趣味の読書や楽器演奏を楽しんでいる。現在の仕事を退職したら旅行したいと考えている。

◆jさん（60歳代、男性）

市役所に勤務し、定年退職後も仕事をしている。以前はマージャンやパチンコに打ち込んでいたが、今は健康づくりのためのウォーキングと読書が日課となっている。図書館もよく利用している。仕事は、上司や先輩の仕事を見て覚えた。やってみないと理解しないし、身につかない、失敗を克服することが必要と思っている。

②青年

夜間も仕事していることが多いようです。仲間と時間が合わないため、団体としての活動はできませんが、休日に集まるとスポーツをしたいと考えています。団体としての活動ではないため、公共施設が使えず公園等で活動している。

子どもの頃は、地域の行事やお祭りへ参加していましたが、時間が合わない等の理由で、現在は参加していないようです。単身者であり、地域とのつながりが薄く、地域での活躍の場は少ないとのことでした。

◆kさん（20歳代、女性）

市内の大学へ通学して、夜はアルバイトなので、帰宅時間が夜10時以降。バスケットボールチームに小学生の頃から入っているが、現在は、あまり活動できていない。

◆lさん（20歳代、男性）

大学まで1時間30分かけて通学し、夜は、自分が通った塾の講師に勧められて始めた塾講師のアルバイトをしている。生徒に教えながら自分も学ぶことがあり、楽しい。休日は、なるべくお金のかからない遊びを考え、遊んでいる。

◆mさん（20歳代、男性）

市内の企業に勤務している。3交代体制で、生活リズムが友人と合わないのが悩み。子どもの頃からソフトボールチームに所属し、現在は社会人チームに所属している。休日は、ドライブや市内の公園で運動している。

③企業職員

全員、転勤のある市内の企業に勤務しています。業務で地域との交流や会社のPR、工場見学の受入れなどを担当していることが、地域を知るきっかけとなっているようです。また、大牟田出身でないことが「広報おおむた」をチェックする動機になっているようです。

住んでいる地域のことを知りたいという意識はあるようですが、情報取得に苦労しています。

◆nさん（20歳代、男性）

県外出身で、就職して大牟田勤務になった。小学校から大学までバスケットボールのチームに所属し、多くの仲間を得た。

◆oさん（20歳代、女性）

県外出身で、就職して大牟田勤務になった。大学で環境のことを学び、環境保全のNPOやNGOの活動に参加したことがある。大牟田でもこのような活動をしたかと思っていたが、関連情報の取得に苦労している。

◆pさん（20歳代、女性）

県外出身で、就職して大牟田勤務になった。父の転勤が多く、転校を繰り返した。学生時代に、学生主体のNPO法人で空き店舗を活用し、カフェを運営した経験がある。

④フルタイムで仕事していない人

全員、子育てを通じて地域と関わり、友人を持つことができているようです。対象者が全て女性であったため、いわゆる主婦層が日頃思っていることを聴くことになりました。子どもだけでなく、自らの学習活動にも意欲的で、図書館をよく利用しています。

キャリアアップしたいという意識も高く、仕事につながる（資格取得できる）託児付の講座の開催を望んでいます。また、主婦向けの料理教室、各小学校で地区公民館の子ども事業を行ってほしい等の要望もありました。

◆qさん（30歳代、女性）

小学生2人の母親で、家事と子どもの習い事の送迎などに追われている。子ども会育成会の役員になり、大蛇山、子ども神輿、ラジオ体操などの活動も経験した。地区公民館は、子どもがよく利用している。主婦向けの料理教室へ参加したいと思っている。

◆rさん（50歳代、女性）

市外出身で、結婚して転入した。知り合いがいなかったため、子育てサークルへ参加し友達がたくさんできた。今でも交流している。子どもに手がかからなくなったと思ったら、親の介護で忙しい状況が続いている。仕事をしたいが、難しい状況。現在は、定期的に図書館を利用している。

◆sさん（40歳代、女性）

県外出身で、結婚して転入した。来るまで大牟田のことは全く知らなかった。

子どもが近所の公園で遊ぶようになり、同じくらいの子どもの母親と友達になった。生協の役員を務めている関係で、毎月20冊以上本を読んでいる。仕事・資格取得につながる講座や読書会、子どもが自分で通える小学校区内での子どもの体験活動事業の開催を望んでいる。

⑤青年会議所

全員、自営業を営みながら、青年会議所に所属して活動されています。「大牟田のために」という熱い想いを持っており、議論が夜中まで続くこともあります。活動は、会費を主な活動資金に、自立したものであり、主体的に事業を展開することで学ぶことも多いようです。みなさん忙しいため、趣味的な学習ニーズが満たされていないようです。

◆ tさん（30歳代、女性）

自営業を営んでいる。家族の加入をきっかけに青年会議所へ入会した。ひとづくり委員会に所属し、子どもが大牟田を好きになってもらうために、子ども神輿や学生会議所などの活動を展開している。

◆ uさん（30歳代、男性）

自営業を営んでいる。仕事で付き合いのある人から誘われ青年会議所へ入会した。まちづくり委員会に所属し、まちが元気になるための活動を展開している。独立する前は資格取得の勉強で、フレンズピアを利用していた。広報おおむたのお知らせ記事だけでは分からないことが多いので、講座の内容が分かるきめ細かい情報が欲しいと思っている。

◆ vさん（30歳代、男性）

自営業を営んでいる。まちのために何かやりたい、人生の節目で何か変えたいという想いで青年会議所へ入会した。まちづくり委員会に所属し、同年代の会ならではの楽しさを感じている。交友関係が広がると思いゴルフを始め、実際にいろんな人と知り合いになり勉強になっている。

(3) インタビュー調査結果から見えてくるもの

1) 「子どもと関わる機会」を求めている

ボランティア活動で出会った子ども達から元気をもたらした、子どもたちの笑顔に励まされた等という声が聞かれました。子どもと関わることで、自らの成長を感じている人が多く、子どもと関わる機会が求められていることが分かりました。

2) 「身近な場所」での学習機会を求めている

小学校など、子どもが自分で行くことのできる場所で体験活動事業の開催を望む声や、市立図書館で行われている読書会を地区公民館でも行って欲しいなどという声が聞かれました。

身近な場所での学習機会が求められていることが分かりました。

3) 「仕事につながる」学びを求めている

子育て中の人からは、現在は子育てに専念しているけれども、また働きたいという声が聞かれました。また、資格取得のための託児付の講座や、平日の昼間に行われるキャリアアップのための講座を望む声も聞かれ、このような仕事につながる学習機会が求められていることが分かりました。

4) 人生の転機は、活動を始めるきっかけになる

定年退職後に、前任者から頼まれて町内公民館の役員になったり、子どものために何かしようと思い始めた頃に声をかけられPTA活動を始めたり、子どもが生まれ「広報おおむた」をよく読むようになり、地区公民館の子育て講座に参加しているという声が聞かれました。

退職や出産、子どもの進学など、人生の転機は、学習活動を始めるきっかけになっていることが分かりました。

5) 周りの人の理解と協力が活動を支えている

みんなが協力してくれるのでサークル代表を務めていて困ったことはない、家族が理解してくれるから学習活動が続けられる、地域の支え合い・助け合いが町内公民館の魅力であるなどの声が聞かれた一方、妻が病気になり、町内公民館活動を続けるのが大変になった等の声も聞かれました。

周りの人からの理解や協力は、学習活動や学習成果を生かした活動のための大切な要素であることが分かりました。

6) 活動の中に「楽しみ」、「やりがい」を見出す

楽しんで活動している、多くの人と交流を持つことができる、ほめられる機会がある、子どもたちからお礼状をもらえて嬉しかった、地域の人から頼られ、やりがいがあるなどの声が聞かれました。

活動の中に楽しみや、やりがいを見出すということは、学習活動や学習成果を生

かした活動を続けるうえで大切であることが分かりました。

7) 友人・知人からの「声かけ」が、学んだ成果を生かすきっかけになっている

サークルの仲間から誘われてボランティア活動を行うようになった、知人から町内公民館長になって欲しいと頼まれたなど、友人・知人から誘われて学習成果を生かす活動を始めたという声が聞かれました。

友人や知人、仲間からの声かけは、学習活動や学習成果を生かす活動のきっかけの一つとなっていることが分かりました。

8) 学んだ成果を生かす活動に、豊富な「体験・経験」が生かされている

上級生・下級生等の多くの友達と遊んだことで思いやりの心が育まれた、よくお隣でご飯を食べていた、社宅対抗のバレーボール大会に出場していたなど、若い頃からの体験を語ってもらいました。また、職場で苦勞したこと、学級通信や労働組合機関紙の発行経験を生かしていることなど、仕事や地域活動の経験を語ってもらいました。

このような豊富な経験が、現在の学習成果を生かす活動に生かされていることが分かりました。

9) 「青年」の活動の場や機会が求められている

青年層が活躍できる場が少ない、友達と予定を合わせてスポーツをしようと思っても場所が空いていない、環境保全活動を行いたかったが仲間や活動拠点をみつけることができなかったなどの声が聞かれました。

青年層が活動する場や機会が少ないこと、青年層に見合った学習情報が少ないことが分かりました。

10) 頼られて活動をはじめた人がリーダーとして活躍している

町内公民館の役員さんからは「しょんなかけん」やっている、誰かがしなければならぬという責任感で続けているなどの声が聞かれました。このような話とともに、町内公民館の役員をしているから健康だと思ふ（していなかったら気が抜けてしまう）などの話も聞かれました。そして、頼られていることが、やりがいにつながっていると感じられました。

また、パソコンで文書を作ることなら手伝えるからと、地域だよりや文書作成を手伝っているという声も聞かれました。

「しょんなか」と言いつつも役を引き受け、地域のリーダー等として活躍されていることが分かりました。

11) 学びは循環している

友人や知人から誘われてサークル活動を始めた、多くの人との出会いがあるから活動を続けられる、学習成果を生かしたボランティア活動を通してやりがいを感じ

ているなどの声が聞かれました。

学習活動を行うことによって、出会いがあり、出会った人に誘われてボランティア活動等を行い、そこで学習意欲が生まれ、新たな学習活動を始める。学習活動を続けている人には、この「学習活動→出会い→学習成果を生かす活動→出会い→学習活動→…」という流れがあり、学びが循環していることが分かりました。

12) 社会教育事業は、学びや仲間づくりのきっかけをつくっている

「高齢者大学」や「婦人大学」で知り合ったメンバーでサークル活動をしている、以前「青年学級」や「少年少女サマーライフ」に参加し現在は別の活動を行っている、「青少年のつどい」に携わったことで他の団体との交流や情報交換ができたなど、以前行われていた事業のことを熱心に語っていただきました。

これまで本市で取り組まれてきた事業は、学習活動や仲間づくりのきっかけ、別の活動のきっかけ、団体間の情報交換のきっかけなどをつくり出していることが分かりました。

13) 社会教育事業は、継続した活動・学びの循環を支えている

現在実施している「生涯青春はつらつ塾」がきっかけでできたサークルが、「生涯学習ボランティア登録派遣事業（まなばんかん）」に参加し、学習活動や学習成果を生かす活動に取り組んでいるという声が聞かれました。

また、サークル活動でたくさんの人と出会った、地区公民館職員に促されてこれまでとは別の活動も行うようになった、図書館職員から読書会を勧められたことが現在のサークル活動の素地になっているなどの声が聞かれました。

本市の社会教育事業は、学習活動や学習した成果を生かす活動をつなぎ、新たな活動を促し、学びの循環を支えていることが明らかになりました。

14) 図書館、図書コーナーは、いろんな立場の人に利用されている

社会教育関係団体に所属していない人から、本をよく読む、図書館で気軽に本を借りている、必要な資料を複写しているなどの声が聞かれました。また、社会教育関係団体に所属している人から、図書館や地区公民館の読み聞かせ講座に参加し、サークル活動を続けているなどの声が聞かれました。

読書への関心が高いことや、いろんな立場の人が図書館を利用していることが分かりました。また、図書が仲間と一緒に学習活動を行うきっかけになっていることも分かりました。